TED 型プレゼンにおける話者印象を形成する服装に対する価値観
――人称記述によるパタンランゲージを通じた探究－

池ケ谷　一輝

本研究では TED 型プレゼンテーションの話者印象は服装における身体固有性や文脈によってどのように変化するかということに着目し、印象形成における服装の影響について探求を行った。先行研究によれば服装が印象形成に対して影響を与えていることが分かっている。一方で量的調査では服の形を大まかなカテゴリに分類したり体格を固定したりというように検証する要素が限定されている。しかし実際にはどのような人が着るか、どのような場面で着るかによって印象が変化すると思われる。そこで TED Talk 及び TEDx Talk の視聴を通じて印象を記述し、その記述を KJ 法によって分析、パタンランゲージの制作を通じて、量的研究において排除されている要素を考慮しながら上記問題にアプローチした。

本研究では一人称研究アプローチを採用し、からだメタ認知記述とその分析を行った。からだメタ認知記述では 99 本の TED Talk, TEDx Talk を視聴し、感じ取った雰囲気、連想した職業やキャラクターなど、獲得した印象を服装や立ち振る舞いといった事実と結び付けながら記述した。記述から要約的短文を抽出し KJ 法によって分類、表札付けを行った。また KJ 法による結果と実際の記述を元に、TED 型プレゼンテーション登壇時の服装提案としてパタンランゲージを制作した。

KJ 法の分類からは私の印象形成において注目している観点が職業やキャラクターの想起、人柄の妄想、心持ち、環世界、距離感、受けいれやすさ、服の直接的印象の派生、ファッションセンスの 8 つに分類できることが分かった。また 3 つの事例から仮説を提示した。身体固有性の影響、“肩書き”という印象の存在、環世界の伝達である。1 つ目では体格によって得られる印象が異なる可能性が示唆され、服装を誰が着るかによって異なる印象が形成される事例について考察した。2 つ目では服装から職業や肩書きを連想し、その連想対象として話者を見る可能性が示唆された。このことから服の印象を語る際の形容詞や形容動詞による表現に限定することの不足、社会的属性への還元という欲求、話者に対して連想された職業の経験の付帯について考察した。3 つ目に環世界の概念を用い、スピーカーが見ている世界を服装から想像する事例を提示した。このことからアイデアがもたらす具体的なイメージを獲得する一要素を服装が担っていることが示唆された。

課題としては文脈依存性における TED 型プレゼンの独自性の解明がある。服装が文脈に依存する理由は、TED 型プレゼンという形態なのか、多数から注目される環境なのか、それともあらゆる場面において人は服装を認識する時に文脈を意識しているのか、未解決である。特に現実に多数の閲覧者が意識されない SNS や街歩きなどにおいても文脈依存性は存在し続けるのかということについては更なる探究が必要であると考える。

（指導教員　松原 正樹）